





花散里

奇よきて巻の名とせり

またの事なりけり

都に花らう里とよみてそとよ

細源氏廿四巻六月の事也

賢木の巻れ末と同一夜の時くはれ六月よりすて乃事

わつとや夕立の比とも此巻を賢木の巻れとありハ前とえ

えしり花咲日 絲名院殿此院よりこの巻は隠居の本意ハ

わりは巻ハ情懐ヨセイよりあり隠居のありありありてやうて次

へろろのろひわれハ情懐よりありありハ おは人のこととせ

よとめてて云わたりおは花散里の上と云

人なれぬ 細源の公勝月夜

散里の事よとえん

つとまておぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

人なれぬ 河の公勝月夜

散里の事よとえん

つとまておぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

おぬさこの

[illegible]

んえんをくすしゆめきてゆりあは
 今も一合はあもるよりとて明惟光り定ぬれまうを
 とけりて久しく同路なりしあよりこころよひくらと思へ
 海は今よりとけて和いそんずつと山さるるごとく
 やーハ好まざるゝこそぐなふてくるべきやうもあは
 のじきめくも海のみひ路一人也後片の巻よそより海の
 元日師 おまへにみせらの舞姫ありし人なるべし 幸朝月令
 要割也勸載む女卷三
 とくろは持どんとて終はりて人の抱ひともせず
 とに^細ろろのいとゆるく^{孟市へんかたある}月をへても々
 あげり^地がけくやようわたり
 のなまけいどづゝゆるぬみもななく
 あもこの人乃のみひぐさかりざて
 のほのところんがばーやまのしもぞろ
 く人めぢくちづらめてばんする有格を
 もねもて表ぢりやび^{孟蘇景殿}女のいのちこそ

ひーのれいのごりななどさうさうさう
 よあさうさうさうさう 細六月のはちうさうのさうさう
 1 乗月 ぼよよよよよよよよよよ
 えわらてちうさうさうさうのさうな
 ひーくさひひて女れのれけさひひひ
 しれどあさでさうさうさう 貴 芳
 ぼやらららら 原のく細相つふの帝は沙路の程と思かた
 しとさうさうさうさうさうさう
 よいさうさうさう 故院のさうさう
 ああさうさうさうさう 抄原のさうさう
 ぼよよよ 細中川の
 者のほさうさうさう 者のほさうさう
 つうさう つうさう

人ともあやせ

とつりの世のさびし

細んがりのあつ人も

又とつりとあつ人も根を落さずともさうりほの性もとりつ。呼世のさびし世のさ

らひかり悪のさびさふさふさうりほの性もとりつ。

ありつる 細 中川の糸の糸と師いづの中はれ糸の糸もさびしとさうりほの性もとりつ。

